



ゼベヌザム著  
何禮之譯

民法論綱

卷一

和装本

711

850

2



保  
870  
2

東京  
學校圖書

民法論綱卷之二

何禮之譯

第十回 資産ヲ侵スニ因テ所生ノ諸害ヲ列

述ス

人ノ生計ニ於ケルヤ勞作者ヲ保護シ、勞作ノ果實ヲ  
享用シテ安固ナラシムルノ法律ニ依頼スルハ己  
ニ之ヲ論セリ、茲ニ資産ヲ侵スニ因テ所生ノ諸害ヲ  
列述スヘシ

第一 不有ノ害 若シ富ノ一分ヲ得ルヲ以テ利  
ト爲サハ則チ之ヲ有セサルヲ以テ害ト爲サル

ヲ得ス固ヨリ此害ハ唯之ヲ有セサルノミノ虚害  
 ナリト雖モ是故ニ性法上ノ境遇ニ止マル處ノ人  
 ハ富財ノ福利アルヲ知ラス從ツテ富財ニ缺乏ス  
 ルノ苦ヲ覺ヘサルヘシ然リト雖モ若シ之ヲ吾人  
 ノ今日ノ境遇ニ比スル時ハ富財ニ由テ得ヘキ處  
 ノ康福ヲ得ス從ツテ吾人ノ享用スル處ノ康福ヲ  
 享用セサルモノタルトハ智者ヲ俟タスシテ然ル  
 ヲ知ルヘキナリ  
 利ノ一分ヲ失スルニ其利ハ常ニ知ラサルモノニ  
 屬シテ現ニ之ヲ覺ラスト雖モ然レモ之ヲ得サル

處ノ人ノ為メニハ必竟損失タルヲ免レサルナリ  
 何トナレハ若シ朋友アリテ我ニ物ヲ惠マントス  
 ルニ汝ニ不幸ノ事ヲ生シテ之ヲ妨クル時ハ其惠  
 ハ固ヨリ我カ所望ニアラストスルモ我レニ損失  
 ヲ與フル者ハ汝ニ在ラスシテ誰ニカ歸センヤ果  
 シテ此ノ損失ハ何ノ邊ニ胚胎スルヤ即チ我レハ  
 若シ汝ニ不幸ノ事アラサレハ我カ有ニ歸スヘキ  
 所ノ物ナルヲ乃チ汝ノ不幸ニ依テ得サルノ虚害  
 ヨリ成レハナリ  
 第二 損失ノ苦 現ニ我カ所有ニ歸シ或ハ我カ

所有ニ歸スヘキ理アル物件ハ、我カ思想ニ於テ都テ之ヲ恆久ノ所有ト見做シ、乃チ之ヲ以テ我カ一身ノ希望ト我レニ依頼スル處ノ諸人ノ希望ノ根柢ト爲シ、之ヲ以テ營生處世ノ柱礎ト爲サ、ルハ無シ、且我カ資産ノ各部ニハソノ實價ノ外更ニ愛好ノ價ノ存スルアリ、即チ祖先傳來ノ産業、我カ勞作ノ褒賞、及ヒ子孫未來ノ利益等是レナリ、殊ニ思慮、勤業、經濟等ノ數者アリテ絶エス我カ費シ出ス處ノ部分ヲ記憶ニ印深シ、之ニ因テ快樂ヲ未來ニ擴充センカ爲メニ、現在ノ快樂ヲ抑制スル、念頭

ヲ起サシメ、終ニ我カ資産ハ恰モ我カ身ノ一部ト爲リテ相離レス、我カ心死セサレハ之ヲ割ク可ラサルニ至ルナリ

第三 損失ノ恐 己ニ失フ處ノモノヲ愁スルノ情ハ忽チ延及シテ現ニ所有スル處ノモノニ安堵セサル情ト爲リ、甚シキハ其カ能ク之ヲ得ハキモノヲモ敢テ之ヲ有セス、生計殷實ヲ失フニ至ル可シ、蓋シ生計殷實ニ供スル諸物ハ概シテ腐蝕ニ歸スルモノ居多ナルニ依テ未來ノ所得ハ必ス現在ノ所有、竭キサル間ニ之ヲ補足セサルヲ得サレハ

若シ安固ヲ失シテ一定ノ點ニ達スル時ハ則チ物  
 ノ失フノ恐ヲ生シテ物ヲ有スルモソノ康福ヲ覺  
 ヘス吾人物ヲ保ツノ念アリト雖モ百千ノ憂慮交  
 至テ遂ニ之ヲ放棄スルノ患ヲ生シ貨財ハ散リ去  
 ルニアラサレハ必ス地下ニ埋メテ世ニ顯レズ康  
 福ヲ享用スルモ幽隱秘密ノ中ニ在テ唯々人ニ知  
 ラレテ貪者ノ肉タランコトヲ戰惕スルニ歸センノ  
 第四 勤業ノ破滅 若シ我ハ勤作スルモソノ果

實ヲ得ヘキノ希望ナキハソノ勤勞ハ徒ニ敵人  
 ノ所得ト爲ルニ過キサレニ依リ唯々一日ノ生計  
 是レ慮リテ來日ノ事ヲ顧ル能ハス加之勞作ヲシ  
 テ生々止マサラシメンカ爲メニハソノ意志アル  
 ノミヲ以テ未タ足レリトセス必ス又機械ヲ必用  
 ナリトス意志機械ノ二者具備シテ而シテ生計ハ一  
 日モ之ヲ忽セニス可ラス若シ其中ノ一ヲ失スレ  
 ハ敢テ我カ勞作セントスル性情ヲ害セス敢テ我  
 カ意思ヲ破毀スルニアラサレハ我ヲシテ事業ニ  
 勤勞シ能ハサラシムヘシ是故ニ第一ヨリ第三ニ

至ル迄ノ害ハ人心内面ノ機能ヲ損シ、末ノ一類ハ外面ノ機能ニ推及シテ心カヲ併セテ痿痺滅絶セシムルモノナリ

審カニ此諸害ヲ分析スルニ、四類ノ中ニテ第一第二ハ其害ヤ獨リ物ヲ有セサルノ私人ト物ヲ失フタル私人ニ止マルノミ、第三第四ノ二害ハ其性、曼衍シ易ク遂ニ社會ノ衆人ニ傳染シ、一人其資産ヲ侵サル、キハ他ノ所有者互ニ相駛キ、甲ハ乙ニ傳、乙ハ丙ニ傳、ハ彼是響應シテ己カ所有ニ安堵セサルノ人情トナリ終ニ一國ノ痼疾ト爲ルヘシ

工業ヲ擴開スルニハカト志ノ二者ヲ合セサレハ能ハス、志ハ勸獎誘掖ニ依頼シ、カハ機械方便ニ依頼ス、經濟學ニ於テ此機械方便ヲ指シテ有産ノ資本ト稱ス、一私人ノ上ニ就テハ勤業ノ志ヲ破リ或ハ之ヲ衰頽セシムルノ事アラスト雖モ往々財本ヲ損傷スルトアルヲ免レズ、然レモ一國人民ノ上ニ就テ之ヲ論スルホハ其害先ツ人心ニ鑽入シ、天然ノ財源ハ依然トシテ豐富ナルモ勤業ノ氣カハ日ニ憔悴ニ就キ、理財ノ道、壅塞シテ始メテ有産資本ノ損傷ヲ生スルナリ、然リト雖モ勤業ノ氣カハ能ク無數ノ刺戟ニ激セ

ラレ無數ノ失望ト闘ヒ無數ノ損失ニ抗抵シテ屈撓  
 セス、假令卒爾ノ災害如何ニ浩大ナルモ其氣力ヲ撲  
 滅スルコト能ハス、見ヨヤ此氣力ハ兵亂ノ爲メニ一國  
 疲弊シタル後ニ於テモ直ニ勃興スルコト猶ホ倔強ナ  
 ル橡樹ノ適大風ニ逢フテ折傷ヲ得ルモ未タ數年ナ  
 ラスシテ枝葉繁茂シ再ヒ綠蔭地ヲ蔽フニ至ルカ如  
 キモノアルコトヲ、然ラハ則チ勤業ノ氣力ヲシテ冷灰  
 ノ再ヒ燃ヘサルカ如クナラシムルハ果シテ何物ノ  
 作用ニ出ルヤ、答テ曰ン政府ノ暴虐ナル、法制ノ不良  
 ナル、其他教法、寛和ナラスシテ民心ニ背馳シ、或ハ淫

祠ニ蠱惑シテ恐懼ノ情ヲ起サシムル等都テ一國內  
 治ノ淑慝ニ出テ、天災外患ノ如キ國外ノ事ニ拘ラ  
 サルナリ  
 暴虐ノ初度ニ於テハ人民一定ノ恐懼心ヲ生シ、氣力、  
 薄弱ナル者ハ己ニ之ヲ沮喪シ、二度ノ暴虐續キテ起  
 ル時ハ其勢頗ル猛烈ニシテ思慮深キ者モ亦之ニ駭  
 キ、自ラ其所企ノ事業ヲ輟メテ進取ノ步驟ヲ止ム、此  
 暴虐ノ舉ハ度數ノ相重ナルニ應シテ苛刻ノ措置ハ  
 益、慣習シテ怪シマサル體裁ト爲リ、離散ノ勢ハ益、甚  
 シク、遂ニ微倖ニシテ苦難ヲ脱シタル者ハ去テ復タ

歸ラス、殘ル所ノ者ハ身心疲衰シテ有為ノ氣力無キニ至ル、斯ノ如クシテ荏苒止マサル片ハ勤業ノ嘉禾ハ暴風ノ為メニ摧折セラレ良田變シテ不毛ノ地ト為ルハ必然ナリ

小亞西亞、希臘、埃及及ヒ亞弗利加濱海ノ地方ハ羅馬ノ帝國旺盛ナル時ニ方テハ人烟繁殖シテ農商ノ業大ニ昌榮ナリシモ、突厥ノ專制政ニ屈スルニ及テ形勢一變シテ復タ見ルヘキモノ無キニ至リ、宮閣ハ變シテ茅舍ト為リ、大府ハ變シテ寒村ト為リ、而シテ有識ノ士ノ惡ム所タル專制政府ハ曾テ資産ヲ保護シ

テ民心ヲ安堵セシメサレハ以テ國家ノ富強ヲ期ス可ラサルノ道理ヲ會得セヌ、其治術ト為セシハ單ニ財産ヲ涸竭シ人民ヲ蠢愚ニスルノ二種ノ秘策ニ或ル耳、爰ヲ以テ世界無比ノ良壤モ空曠ノ荒野ト為テ其零落ノ狀ハ假令野蠻ノ為メニ焚掠サルハ所ト為ルモ斯ノ如キ甚シキニハ至ラサルカ如シ、此慘毒ヲ致シタル原因ハ之ヲ内訌、外患或ハ天災ノ如キ遼遠ノ事故ニ歸スルヲ要セス唯、是レ暴政ノ一事ニ在ルナリ、○夫レ兵禍天災ハ富財ヲ糜散シ技術ヲ滅絶シ府邑ヲ蹂躪スヘシト雖モ、海港ノ埋没マルモノハ之



民志論 卷之二 七 何世 權初

ヲ濬ヘテ深クスヘシ道路ノ壅塞セルハ之ヲ排キテ  
通スヘシ、製造所ハ再興スヘシ府邑ハ重建スヘシ、苟  
モ人ニシテ人タルノ分限ヲ失セサル間ハ治療ノ策  
ナキニアラス、然レモ獨リ此諸國ニ於テハ不安不穩  
ノ効驗、續々トシテ發生シ、人民ノ氣力ハ失墜喪蕩ニ  
歸シ一切機能ノカヲ破毀シテ之ヲ挽回スルニ術ナ  
ク、遂ニ奈何トモ為シ能ハサルニ至レリ人運ノ不幸  
ナル哉

吾人若シ此惡疾ノ流傳シタル來路ニ溯リテ之ヲ見  
レハ、其初メハ必ス社會中ノ富者ニ感染シ富財ヲ以  
テ劫掠第一ノ目的ト爲シ、餘裕ノ財貨漸ク渙散シテ  
其備ヘテフル處ハ真ニ一日モ缺ク可ラサルノ需要  
ト爲ルヲ知ルヘシ、蓋シ人ハ一日モ衣食セサルヲ得  
サルヲ以テ幾多ノ障碍アリト雖モ必ス生計ノ資ヲ  
備ヘサル可ラサレハナリ、然レモ人ノ經營辛苦スル  
處ノ心力、唯タ生計ノ一點ニ限ル時ハ、國勢衰弱シテ  
勤勞ノ炬燭ハ殆ト熄滅セントシテ唯タ一星ノ耿々  
タルニ過キサル耳、加之、殷實生計ノ二者ハ其性相類  
スルモノニテ一者損傷ヲ受ル片ハ從ツテ一者ノ安  
固ヲ害シ、甲ハ單ニソノ餘裕ヲ失フモ乙ニ在テハ生

民風編 卷之三

計ノ需要ヲ損スルニ至ルナリ、故ニ經濟上ノ關係ニハ繁密精微ノ脈絡アリテ彼此交感シ、國民一部ノ富財ハ乃チ衆多ナル他ノ一部ノモノ、因テソノ生計ヲ謀ル泉源ト爲リ、其系極メテ井然タルモノナリ之ニ反シテ安固ノ進歩ト之ニ追蹤シテ相離レサル處ノ繁榮ノ來由ヲ推測スル片ハ、瑞祥ノ景色、迥カニ前文ト其趣ヲ殊ニスルモノアリ、北亞米利加ノ大陸ニ於テハ野蠻ノ人民、文明界ノ傍ニ住居シテ彼此ノ景況相懸隔シ、明昧文野ノ別、殊ニ判然トシテ人目ヲ驚カスニ足レリ、此大陸ノ中部ハ所謂人跡罕到ノ地

ニシテ沙漠万里、深林無涯、江河流通セズ、毒蛇惡蟲、瘴烟蠻霧ノ中ニ蜿蜒シ、野蠻ノ酋種ハ始終、此中ヲ徘徊シ水草ヲ逐フテ遷移シ、日夜射獵ニ從事シ、部落相會スレハ忽チ爭鬪ヲ生シテ相和セズ、我レ彼ヲ殺サ、レハ彼レ必ス我レヲ滅スノ景況アリテ、人ヲ畏ル、一太甚シキヲ以テ猛獸ノ害モ敢テ意トセサルモノアリ、○此野蠻境ヨリ眼ヲ轉シテソノ近隣ナル社會ヲ見ヨ、祥雲藹然トシテ開化社會ノ上ニ駿驟シ、深林ハ闢ケテ田園トナリ沮洳ハ乾キテ隴畝ト爲リ、禾穀焉ニ豐カニ牛馬焉ニ蕃息シ、府邑興リテ道路相接シ、家

可成

屋櫛比シテ瘴嵐ノ惡氛息ミ、人民ノ經營スル處物トシテ相親シマシムルノ方便ニアラサル無シ、故ニ人ハ人ヲ恐レズ又彼此相殺スノ念ナク、海港ニハ船舶蟻集シ球上ノ物産ヲ輸載シテ有無ノ交易ヲ爲シ人烟繁殖シテ各自勞力ノ果實ヲ摘ミ、以テ太平ヲ樂シシ饒財ニ浴セリ、人民爰ニ到リテ始テ彼ノ鬭爭ト凶歎トニ抗抵セシ處ノ野蠻界ヲ脱離スルヲ得、實ニ一人ノ眼光ヲ以テ斯ル優劣判然タル二幅ノ畫ヲ見ントハ殆ト信ス可ラサルカ如シ、○抑コノ驚クヘキ文明ヲ陶冶セシ所以ハ何ソヤ、又球上ノ景物ヲ革新

セシモノハ何ソヤ、又人類ヲシテコノ華實ヲ具シテ完全ナル物界ヲ支配セシメテソノ所有ト爲セシハ誰ノ工化ソヤ、答テ云ンコノ大徳アル天神ハ即チ安固ノ一事ニ外ナラス、此大變化ヲ致シタルハ必竟安固ノ功勳ナリ、而シテ其工化ハ何ソ其レ神速ナルヤ、則チ維廉百因カ真ノ勝國者ヲ率ヒテ此ノ野蠻界ニ渡航シ、初メテ植民ノ業ヲ建テシ以來未タ二百ノ星霜ヲ經過セサルニアラスヤ、蓋シ百因ノ黨派ハ皆ナ平和ノ人民ニシテ兵力ニ仗ラスシテ開拓ノ偉業ヲ草創シ、慈善、正義ノ二者ヲ以テ威望ト爲セリ、嗚呼真

ノ勝國者タルニ愧チスト謂フモ決シテ諛言ニアラ  
ス（百因ノ功業ハ萬法精理第  
四卷ニ出ツ就テ見ルヘシ）

第十一回 安固全等及ヒ此二目ノ牴牾

制法者現存スル處ノ資産ヲ所置スルニ方テハ必ス  
之ヲ安固ノ大綱ニ商量スヘシ而メソノ商量ノ結果  
ハ果シテ那邊ニ結フ可キヤ

制法者ハ須ラタ現ニ定マル所ノ分配ヲ維持シテ擾  
亂セサルヲ要ス之ヲ稱シテ公義ト云フ公義ハ宜シ  
ク制法者ノ第一ノ職守ト爲ヌ可キモノニシテ其規  
則ハ偏頗ナラス繁縟ナラス邦國ノ異同治圖ノ緩急

ヲ論セス之ヲ施用シテ其弊害ヲ見サルナリ亞米利  
加、英吉利、匈牙利、魯西亞ノ資産ノ景況ヲ見サルヤ各  
國其趣ヲ殊ニシテ實ニ天淵ノ差異アルカ如シ米國  
ニ於テハ耕種者乃チ所有主ト爲リ英國ニ於テハ耕  
種者乃チ莊戸ト爲リ匈邦ニ於テハ耕種者ハ其土地  
ニ屬シテ去就ノ自由ヲ得ヌ魯國ニ於テハ奴隸ト爲  
リテ人類タル權ヲ得ヌ各國治圖ノ異同ニ依リテ耕  
種者ノ分限ニ斯ノ如キ差等アリ從ツテソノ享用ス  
ル處ノ康福ニ厚薄大小アリト雖モ然レモ安固ノ大  
綱ナル者アリ各人ヲシテ其分限ニ安堵セシメ以テ

之ヲ擾亂セシメサルニ至テハ其揆一ニ歸セサルハ  
 無シ。○抑、甲ノ所有ヲ剝キテ之ヲ乙ニ與ヘ因テ安固  
 ヲ破ラヌシテ他ニ分配ヲ爲スノ方策アリヤ、衆人ノ  
 安固ヲ侵犯スルヲ無クシテ一人ノ資産ヲ奪ヒ得ヘ  
 キヤ、若シ今日、新ニ分配ヲ爲シ而ノ次日ニ之ヲ擾亂  
 スルキハ直ニ第二回ノ分配ヲ爲サスシテ止ム可キ  
 ヤ、果シテ然ラハ何ソ第二回ニ分配セシモノヲモ亦  
 改正シテ第三回ニ及ハサルヤ、此景況ニ至ラハ安固、  
 康福、勤勞ノ三者ハ果シテ如何ノ形迹ヲ現ハスヘキ  
 ヤ慮ラサル可ラス

若シ安固ト全等ト牴牾シテ相容レサルコトアラハ全  
 等ヲ捨テ安固ヲ取ルヘキハ理ノ最モ觀易キモノナ  
 リ、何トナレハ安固ハ性命、生計、殷實、康福ノ伏ス攸ハ  
 ニシテ各事之ニ依頼セサルハ無ケレハナリ、而シテ全  
 等ニ至テハ帝ニ康福ノ一分ヲ發生スルノミニ過キ  
 ス、能ク之ヲ發生スルモ而カモ其性ハ至全不易ノモ  
 ノニアラス、今日ハ全等ノ形迹アルモ若シ來日ニ至  
 テ一變革アレハ忽チ以テ之ヲ擾亂スルニ足ル、必竟、  
 全等ハ言フヘクシテ行フ可ラサルノ空理ニシテ、唯  
 タ實際ニ施行スヘキハ全等ヲ失スルノ甚シキモノ

民法論綱 卷之三 何氏稿

民法論綱 卷之三 十一 何氏譯

ヲ減殺スルノ一事アルノミ  
政府ノ鼎革、社會ノ分裂、或ハ亡國ノ禍、如キ暴烈ナ  
ル事故、發生スル時ハ併セテ資産ノ權利モ顛覆ニ歸  
スヘシ、是レ社會ノ免ル可ラサル大難ナリト雖モ、必  
竟一時厄星ノ經過スルモノニシテ時日ヲ以テ之ヲ  
寛和ニシ漸ニソノ壞毀ノ痕跡ヲ修理シ得ヘシ、勤勞  
ノ氣力ハ恰モ生意壯盛ナル樹木ノ百千ノ斧斤ニ罹  
リテ屈セス、陽春ノ到ルヲ俟テ養汁ヲ吸收シテ枝葉  
直ニ繁茂スルモノ、如キアリ、然ルニ若シ制法者貧  
富ヲ平均シテ全等ニ到ルヲ以テ直接ノ趣意ト爲シ

之ニ由テ資産ヲ顛覆セシ片ハ安固ハ之カ爲メニ破  
シ勤勞ハ之カ爲メニ消ヘ殷實ハ之カ爲メニ竭キ  
社會ハ再ヒ昔時野蠻ノ區域ニ却退シ之ヲ救回ス可  
ラサルニ至ラン  
若シ今日貧富ヲ平均シテ全等ニ到ラシムルヲ得ハ  
亦タ當ニ平常之ヲ行フテ替ユ可ラサルノ道理アリ、  
而ノ之ヲ維持シテ墜サ、ルニハ須ラク其初メ之ヲ  
行フタル暴カラ用キサル可ラス、然ル片ハ國中ニ探  
索糾彈ニ從事スル者ノ軍隊ヲ編成シ、其人ハ悉ク鍊  
聾ニシテ愛憎ニ偏セス愁嘆ノ聲ヲ聞カス、快樂ニ誘

民法論綱 卷之三 十一 何氏譯

民法論綱 卷之三 三十一 何氏藏

ハレス一身ノ利益ヲ覺ラス、而モ一切ノ諸徳ヲ具有シテ唯タ其職之レ勤メテ各個ノ情實ヲ破毀スヘキ性質ナカル可ラス、加ルニ又貧富ノ平均ヲ持シテ毫釐ノ高低無ラシメンカ為メニハ、常ニ水平器ヲ執リテ之ヲ測リ一瞬モ之ヲ止ムルヲ得ス、始終貧富ノ消長盈縮スルヲ檢査シテ若シ放蕩懶惰ニシテ家産ヲ破リタル者アラハ一定ノ富財ヲ與ヘテ其不足ヲ補充サル可ラス、勞作ノ果實ニ依テ家産ノ額數ヲ増加シ或ハ儉約ヲ守リテ之ヲ保存セシ者アラハ之ヲ奪フテ其有餘ヲ減セサル可ラス。○社會ノ景況此極ニ到

ル時ハ浪費濫用スルヲ以テ才智ト為シ、狂者ニアラサルヨリハ一人モ勤勞ニ從事スルモノ無キニ至ラシ、故ニ貧富ヲ平均スルノ理ハ其貌チ柔和ニシテ一時治功ヲ奏ス可キモ、最劇ノ毒藥ニシテ終ニ死亡ヲ促ス而已ナリ、此治術ハ瘡ヲ治スルニ肉ヲ烙シテノノ肢體ヲ燒キ併セテ性命ヲ損スルニ至ルモ顧ミサルカ如シ、敵ノ劍銃ハ實ニ恐ルヘキナリ然レモ其害ハ未タ貧富ヲ平均スルノ甚シキニ及ハス、何トナレハ劍銃ノ害ハ唯一部ヲ破毀スルニ止マリ時日ノ久シキ以テ之ヲ消化スヘシ勤勞ノ功以テ之ヲ修繕ス

天倫圖 卷之三 三十一 何氏藏

ヘケレハナリ

二三ノ小社會ニ於テハ教誦ニ熱心スルヨリシテ所  
 生ノ念頭ニ激セラレ、資産共有ノ制ヲ立テ以テ一國  
 ノ大綱ト爲セシモノナキニアラス、然ラハ之ニ依テ  
 果シテ人民ノ康福ヲ増加セシヤ、曰ク否ナ、賞ヲ望ム  
 ノ真情ハ單ニ罰ヲ恐ル、ノ愁情ト變スルニ過キス、  
 蓋シ勞作ハ希望心ヲ以テ之ヲ振作スル時ハ極メテ  
 容易輕快ナルモ、斯ノ社會ニ於ルカ如キハ未來ノ冥  
 罰ヲ遁ル、カ爲メニ己ムヲ得サル贖罪ノ刑ト爲レ  
 リ、是故ニ教誦ヲ固守スルノ心力失墜セサル間ハ各

人勞作ヲ勤メテ敢テ怠ラサレ、呻吟ノ聲ハ常ニ各  
 人ノ口ニ斷サルナリ、○然ラハ冥罰ヲ恐ル、心情ハ  
 漸々薄弱ニ歸スヘキヤ、曰ク然リ、乃チ社會ハ分レテ  
 二派ト爲リ其一ハ頑固ナル信教者ト爲リ鬼神ニ盡  
 惑シテ諸ノ不善ヲ行ヒ、其一ハ游食ノ奸民ト爲リ隣  
 人ヲ欺騙シテ己カ飢腹ヲ扶持シ、而シテ猶オ罵々ト  
 シテ口ニ貧富ノ平均ヲ唱フルハ、唯タ己レ懶怠ニシ  
 テ他ノ勤勞ノ果實ヲ強奪スル痕跡ヲ掩フノ口實タ  
 ルニ過キサルナリ

且ツ慈善和合ノ二徳ハ外貌良美ナルヲ以テ大ニ熱



心者ヲ興起セシムト雖モ、社會ノ景況、此ノ如キニ到  
テハ、單ニ空想虚望ト爲リテ之ヲ實行ス可ラス、故ニ  
勞作ヲ分任スルニ方テモ一人ノ好テ痛苦タルヘキ  
事業ニ就クモノアラス、一人ノ好テ愉快ナラス清潔  
ナラサル課程ヲ選ムモノアラス、一人ノ己カ義務ニ  
ノミ安ンシテ而メ他人ノ我レヨリ輕キモノアルヲ  
見テ之ヲ羨マサルモノアラス、殊ニ己カ義務ヲ抛却  
シテ他人ニ負擔セシメ因テ己レノ分ヲ輕クセント  
欲スルハ人情ノ常ナレハ、詭詐叢出セサルヲ欲スト  
雖モ決シテ得可テサルナリ、○然ラハ資産ヲ分配ス

此ニ方テ各人ヲ満足セシメテ怨言ナク能ク全等ノ  
形貌ヲ維持シ、嫉妬、喧争、愛憎、仇敵ノ事ヲ防止スルハ  
策果シテ那邊ニアルカ、又絶エス所生ノ争論ヲ裁決  
シ得ルモノハ果シテ誰ノヤ、各人ノ自ラ有スル所ノ  
好惡去就ノ自由ト節儉謹度ノ褒賞トヲ排斥スルニ  
ハ果シテ何等ノ刑法ヲ用ヒテ之ニ克ツヘキヤ、曰ク  
如此ノ混亂紛擾ニ際シテハ、社會ノ一半ヲ以テ治者  
ト爲シ他ノ一半ヲ支配セシムルモ尚ホ官吏ニ不足  
ヲ生シテ號令周子ク行ハレサルヘシ、況ンヤ斯ノ如  
キ窮屈固陋ノ法制ハ希臘ニ屈服シタルヘロツト人

種又ハゼス、教會ニ壓倒セラレタルペラゲイノ  
 印度人ノ如ク、一ハ政務上ノ奴隸ト爲リ、一ハ教法上  
 ノ奴隸タル人民ニアラサルヨリハ決シテ行フヘカ  
 ラサルニ於テ、○然ルヲ以テ制法者カ貧富無別ノ  
 理ヲ設立セント欲シテ發明セシ所謂明策ナル者ハ  
 唯タ苦樂ノ二運ヲ以テ二邊ニ集メ、其一ハ苦ニ偏シ  
 其一ハ樂ニ偏シテ却テ大ニ全等ノ理ヲ破リタル失  
 舉ニ過キサルナリ、  
 第十二回、安固、全等及此二目ヲ協和スル策  
 然ラハ安固ト全等トハ兩立セサルノ仇敵ニ至絶エ

ス撞着シテ容レサルモノカ、曰ク一定ノ點ニ達スル  
 迄ハ決シテ相和セサルモノナリ、然レモ少シク忍耐  
 スル所アリ少シク智巧ヲ費スルハ、此二目ヲシテ漸  
 々ニ連驥並馳セシムルノ良圖ヲ得ヘシ  
 此利害相反シタル二目ノ中裁人ト爲リテ能ク之ヲ  
 協和セシムルモノハ唯タ時間ノ一物アルノミ、若シ  
 安固ノ利ヲ害スルヲ無ク而シテ全等ノ理ニ從ハント  
 欲セハ、宜ク希望ト恐懼トノ天然ノ末期ノ來ルヲ俟  
 ツ可シ  
 所有者死シテ、資産其主ヲ失フ時ハ法律ヲ以テ之カ

分配ヲ指令ス可シノ法律ハ過多ノ富財ノ一人ノ  
 手ニ歸センコトヲ防慮シ其人ノ遺囑ヲ立テ、之ヲ處  
 分スル權利ノ幾分ヲ殺クカ、或ハ絶者ニ鰥寡及ヒ直  
 接ノ近親ナク且ツ遺囑ヲ立テ、預メ之ヲ處分セサル  
 時ハソノ資産ハ乃チ固ヨリ之ヲ希望セサル處ノ新  
 主ニ歸シ、而メ他人ノ希望ヲ損セスシテ全等ノ理ヲ  
 扶植シ、自他交其利澤ニ浴セシムヘキナリ、此ニ説ク  
 所ハ唯々其大綱ニ止ルヘシ、夫ノ詳細ノ理論ニ至テ  
 ハ讀者此書ノ中編ヲ熟讀セヨ

奴隸ノ如キ民權ノ全等ヲ失シタルモノヲシテ並立

ノ權ヲ得セシムルノ時ニ於テモ、制法者ノ注意ハ亦  
 當ニ資産ノ權利ニ於ルカ如クスヘシ、而シテ其工夫  
 ハ緩徐ニシテ輕々ノ處置ヲ為サス、小目ヲ施行スル  
 カ爲メニ大綱ヲ紊ス可ラス、急劇ナラサル順序ニ依  
 テ自主獨立ヲ得タル人民ノ康福ハ、之ヲ制法者カ社  
 會ノ分限ヲ革メ一新ノ治ヲ敷ンコトヲ欲シ、驟カニ公  
 義ノ道ヲ蹴破シテ解放シタルモノニ比スレハ却テ  
 自ラ多量ナルモノアリ

吾人見サルヤ農商及ヒ製造等ノ職業繁昌スル國民  
 ニ於テハ絶エス全等ノ地步ニ馴致スルノ勢アルコト

又若シ法律アリテ此勢ニ乖戾セス、若シ專賣特許ヲ  
 曲庇セス、若シ貿易ニ制限ヲ立テス、若シ遺產獨承ノ  
 法アルヲ許サスシテ、唯タ事物ノ自然ニ任スル時ハ  
 敢テ壓制ヲ用ユルヲナク、敢テ騷亂ノ端ヲ開クヲ無  
 ク、敢テ變動ヲ起スヲナクシテ、巨大ノ資産ハ知ラス  
 識ラス、再分三分ニ歸シ之ニ依テ多數ノ人民其利ニ  
 浴シテ中等ノ身代ニ到ルヘシ、是レ乃チ貧富ノ習性  
 ノ自ラ然ラシムル處ノ結果ニシテ、富家ハ華奢ニ耽  
 リテ揮霍シ、物ヲ産セスシテ唯タ物ヲ享ケンコトヲ之  
 レ求メ、貧者ハ藍縷藜藿ヲ甘シテ勞力儉約ノ中ニ樂

地ヲ覓ム、遂ニ技術貿易ノ進步スルニ從ツテ歐羅巴  
 ニ於テハ法律ノ束縛ヲ排除シテ、絶エス、變革釐正ノ  
 流行スル淵源ト爲レリ。○夫封建ノ世ニ於テハ社會  
 ノ人、君臣ノ二分ニ分レ、君ハ土地ヲ領シテ威福ヲ專  
 ラニシ、臣ハ奴隸ニシテ一身ノ自由ヲ得ザリシモ、其  
 宿弊ヲ一掃シテ世上復タ其迹ヲ見ス、寡人ニテ富貴  
 ヲ專有セルコト喻ヘハ巍々タル高塔ノ尖銳ナリシモ  
 日ニ月ニ其尖頂減削シテ鈍角ト爲リ、面積漸ク擴開  
 シ、遂ニ平夷ニ到リシカ如ク、勤儉ノ人勃興シテ自ラ  
 一家ヲ成ス者比々相接シ、終ニ近世開化ノ康福ハ古

代ニ曠絶スルニ至レリ是故ニ吾人斷シテ安固ヲ以テ治民ノ大綱ト爲シ能クソノ地位ヲ堅固ナラシムル時ハ其間接ニ於テ全等ノ理ヲ確定スルヲ得ヘシ若シ否ラスシテ全等ノ理ヲ以テ社會倫常ノ基礎ト爲ス時ハ之ヲ樹ント欲シテ却テ安固ヲ害ス可シト言ハサルヲ得サルナリ

第十三回 安固ヲ得ンカ爲メニ安固ヲ犠牲ニスル事

突然此題旨ヲ聞ク片ハ頗ル謎語ニ近キモノアルヘシ因テ直ニ其本意ヲ解明セン

安固ノ事ニ就テハ心思上ノ成果ト實際上ノ成果トニ様ノ別アリ此畛域ハ極メテ緊要ナルモノニシテ苟モ人ヨリ一物ヲ取ラサルヲ以テ根抵トス之ヲ心思上ノ成果ト云フ必要缺ク可ラサルモノヲ維持セシカ爲メニソノ幾分ヲ取ル之ヲ實際上ノ成果ト云フ此ハ是レ安固ヲ侵害スルニアラス即チ安固ヲ得ンカ爲メニ其一分ヲ殺キテ犠牲ニ供スルモノナリ抑モ侵害ナルモノハ不意ニ出タル變動預慮セサルノ過害及ヒ定理ナキノ亂妨ニシテ之カ爲メニ自余ノ者危懼ノ心ヲ懷キテ一般ノ騷擾ヲ醸ス之レナリ

然レモ安固ヲ犧牲ニスルハ則チ之カ一分ヲ削ルモ  
 ノニテ自ラ其規則アリ、或ハ萬々止ムヲ得サルニ出  
 テ、或ハ各人預メ之ヲ覺悟スルカ故ニ物ヲ失フモノ  
 ニ於テハ損失タルヲ免レスト雖モ、決シテ之カ爲メ  
 ニ危懼ヲ懷キ騷擾ヲ醸シ勤勞ノ元氣ヲ冷淡ナラシ  
 ムル等ノ事無シ、概シテ之ヲ言フニ全一ノ税金ナリ  
 然ルニ賦課方法ノ如何ニ從ツテ一ハ安固ヲ侵シテ  
 人心ヲ危懼ナラシメ、一ハ安固ヲ固クシテ益其功用  
 アルカ如シ要唯タソノ法ノ良否如何ニ存スルノミ  
 此犧牲ノ萬々止ム可ラサルヤ明亮ナリ、夫レ工作ヲ

勤ムハト工作スル人ヲ保護スルトハ其事全ク相反  
 シ、而ノ一時ニ協和セサルモノナリ、是故ニ己カ勞作  
 ヲ以テ富ヲ作ス所ノ人民ヲシテ其一分ヲ殺キテ之  
 ヲ國家ノ守護人ニ與ヘ以テソノ要需ニ充タシムル  
 ハ即チ己カ富ヲ費シ以テ己カ富ヲ守ルノ理ニシテ  
 之ヲ奈何トモス可ラサルモノナリ  
 若シ社會ニ外患内憂ノ禍アル時ハ、敵人ノ安固ハ言  
 フ俟タヌ人民ノ安固ト雖モ之ヲ舉テ守護者ニ寄托  
 シ、由テ其一分ヲ損失セザレハ國家ヲ維持スルヲ能  
 ハサルモノアリ、然レモ一派ノ人アリ、コノ彼此相因

ルノ理ニ通セスシテ損失ヲ為シ能ハサルモノアリ、  
 是レ蓋シ今日ノ需要ニ拮据シテ來日ノ需要ヲ仰ク  
 ニ違マアラサルモノニ屬ス之ヲ要スルニ政府ハ損  
 失ヲ集メテ組織スルモノナレハ此損失ノ價ヲ減シ  
 テ極メテ僅少ノ額數ト為スモノヲ稱シテ乃チ至良  
 ノ政府ト云ス而メ實際上ノ成果ハ間斷ナク心思上  
 ノ成果ニ進取シテ終ニ之ニ達シ到ラサルノ謂ナリ  
 今茲ニ數條ヲ列テ、國家ヲ維持スルニハ安固資産ノ  
 一分ヲ損失セサル可ラサル所以ヲ論述セン

第一 外寇防禦ノ國需

第二 内訌鎮壓ノ國需

第三 天災豫防ノ國需

第四 罰鍰 犯人ヲ懲戒スルカ爲メ 償金 被害ノ人ニ與フルモノ

第五 前款ノ諸害ヲ防止スヘキ權力ヲ擴充セン

カ爲メ、裁判廳ヲ開キ警吏ヲ置キ兵備ヲ設  
 ケテ以テ人民ノ資産ヲ減損セシムル事

第六 所有主自身若クハ他人ノ損害ト爲ルヲ預

防センカ爲メニ、資産ノ權利或ハソノ處分  
 ニ制限ヲ立ル事

原註 特格ノ道理アリテ制禁スルヲ除クノ外ハ、資産ヲ

所有スルモノニテ恣ニ之ヲ處分スルノ權利アル  
ヲ資産ノ通權ト謂フ

此道理ニ三類アリ

第一 私人ノ虧損 物ヲ用ユルニ就テ他人ノ分  
限ニ害アル時

第二 公共ノ虧損 人民一般ニ關係スル時

第三 獨私ノ虧損

譬へハ此劍ハ全ク我カ所有ニ屬セリ恣ニ之  
ヲ用ユル時ハ百般ノ利アリト雖モ、之ヲ用ヒ  
テ他人ヲ傷タ可ラス之ヲ用ヒテ他人ノ衣ヲ

斫ル可ラス之ヲ用ヒテ政府ニ叛クノ器具ト  
爲ス可ラス又若シ我レ若年ナルカ或ハ狂愚  
ナルカハ我カ身ニ損害ヲ招クノ恐アリ因テ  
之ヲ所有スルノ權ヲ得ス

資産ニ關涉シタル各物ノ上ニ無限ノ權ヲ有  
シテ之ヲ節制セサルカハ殆ト各種ノ罪惡ヲ  
爲スノ權アリ若シ我カ所有ノ杖ニ無限ノ權  
アルカハ之ヲ削リテ以テ行人ヲ刺スヘシ或  
ハ以テ王者ノ坊ヲ製スヘシ或ハ以テ偶像ト  
爲シテ宗教ノ妨ケト爲スヘシ



第十四回 議論ヲ生スヘキ事件

貧民ヲ救恤シ宗教ヲ扶持シ技藝學術ヲ脩養スル等ノ費用ハ應ニ之ヲ國需ノ中ニ列置シ其レカ爲メニ租税ヲ人民ヨリ聚歛ス可キヤ

第一章 貧窮ヲ論ス

人口繁殖スル所ノ社會ニ於テハ億兆ノ衆多ナル恐ラクハ日々ノ勞作ニ賴ラスシテ別ニ生計ノ道ヲ得サルノ人民過半ニ居ルナラン然ルヲ以テ不意ノ厄運或ハ貿易ノ變動或ハ天然ノ禍災ニ遭遇シ或ハ疾病ニ罹リテ困頓疲弊シ夫ノ貧窮ノ深淵ニ陷溺スル

ノ機隨テ許多ナリトス況ヤ幼穉ノ者アリ氣力未タ發達セス以テ一身ノ衣食ヲ辨シ能ハス耄耄ノ者アリ氣力已ニ衰ヘテ自ラ生計ヲ經營スル能ハサルモノ之レアルニ於テヲヤ人類ニシテ自食自營ノ氣力ナク榮々トシテ他人ニ依賴スル状態ニ於テハ幼穉耄耄ノ二極其趣一ナリ

固ヨリ人類ニハ天性ノ存スルアリテ善ヲ好ミシ羞惡ヲ知ルノ心アリ此良心ト法律ノ作用ト協和シテカノ老幼ヲシテ常ニ其家族ノ供養ヲ受ケソノ保護ヲ得テ安固ナラシメリ然リト雖モコノ好善施財ノ

論語集注 卷之二十一 何自莊

君子ニシテ時運ノ循環ニ因テ却テ他人ノ救助ヲ仰クニ至ルモ亦料リ難キカ故ニ此一途ニノミ依頼シテ一定不易ノモノト爲スニ足ラス之ヲ概スルニ一夫一婦ノ勞力ニ資テ以テ豊裕ナル生計ヲ得ルノ家族甚々夥シ若シ此夫婦ノ中其一ヲ失スル片ハ忽チ財源ノ一半ヲ減却シ夫婦俱ニ死セハ全ク活路ヲ絶ツニ至ラン  
夫レ慈愛ハ尊キニ向テ薄ク卑キニ對シテ厚キ按敬父スルノ孝ハ愛子スヲ以テ老衰ハ幼弱ニ比スレハ困窮ノ狀更ニ甚シキモノアリ何トナレハ人ハ及哺ノ心

ヨリモ慈續ノ愛ニ偏スルモノニテソノ將ニ生長スル所ノ幼弱ニ於ルヤ大ニ將來ノ希望ヲ期スルヲアリト雖モ己ニ暮景ニ傾キタル老者ニ對シテハ復タ更ニ欲スル所ナキヲ以テナリ○且老者ニ在テハ假令充分ノ供養ヲ得テ一身ノ安樂ヲ缺カサルノ時ト雖モ其意衷ヲ問ハ昔日ハ強壯ニシテ救助ヲ施ス恩人タリシモ今日ハ龍鐘トシテ之ヲ受クルノ人ト爲リ境遇全ク變換シテ悒々相樂マサルノ心情アル可シ況ヤ年齢衰頽ニ傾ク片ハ目ニ觸ル物一トシテ其情ヲ傷マシムルモノニ非サルハ無キニ於テヲ

民法論綱 卷之二十一 何自莊

人類ノ貧窮ニ苦ム景況ハ憫然見ルニ忍ヒサルモノ  
アリ、試ニ筆ヲ執テ困窮ノ狀ヲ畫キ見ヨ、患難並ヒ至  
テ盡期ナクソノ結局ハ一死ノ外又望ムヘキモノア  
ラス、之ヲ譬フルニ貧者ハ患難ノ環線中ニ在リテ委  
頓シ終ニ其苦惱ヲ脱シ能ハサルカ如シ實ニ貧窮ハ  
懶惰ナル有死者<sup>人</sup>ノ命運ヲ吸引シテ一溺身ヲ沈ム  
ル所ノ慘淵タルヲ以テ知ル可キナリ、故ニ人コノ慘  
淵ニ陥ルヲ無ラント欲ヒハ唯々砒々致々トシテ其  
心カヲ勞役スルノ外ハアラス、然ルニコノ勞力ナル

モノモ必然其功果アルヲ恃ムニ足ラス、見サルヤ、カ  
ノ才智ニ富ミ或ハ德行ニ優ナル人ト雖モ人カノ奈  
何トモスヘカラサル厄運ニ遭遇シ、一溺其身ヲ亡ス  
モノ比々トシテ斷ヘサルヲ  
此ノ禍源ヲ防クニハ唯々二策ノ據ルヘキアリ、而シテ  
其二策ハ何レモ法律ノ作用ニ依頼スルヲ要セス、其  
一ハ節儉ヲ守ルニ在リ、其一ハ好善施財ニ在リ  
若シ此二策ヲ履行スルニ足ルヘキ餘裕ノ資財アリ  
テ始終罄キサル時ハ貧民ヲ救恤スルカ爲メニハ法  
律ノ周旋ニ依頼セサルモ固ヨリ妨ケナシトス、之ヲ

要スルニ貧民ヲシテ勤勞ニ由ラスシテ以テ扶助ヲ  
得セシムルカ如キ法律アルハ、即チ勤勞ノ念ヲ杜絶  
シ節儉ノ心ヲ解弛スルノ法律ナリト稱スルモ可ナ  
リ、是レ人ニ勤勞節儉ノ念ヲ興起セシムルハ單ニ現  
在ノ窮乏ニ窘迫スルト未來ノ窮乏ヲ畏懼スルトノ  
心情ニ胚胎スルモノナレハ、コノ窘迫トコノ畏懼ト  
ヲ排除スル處ノ法律ハ、之ヲ着テ懶惰ヲ勸誘シ浪費  
ヲ增長セシムルノ法律ト爲サ、ルヲ得サレハナリ  
以上ノ理論ハ從來貧民ヲ救恤センカ爲メニ許多ノ  
制度ヲ設立セル者ヲ咎責シタルモノニテ其論甚タ

當レリ

然リト雖モ讀者畧々其情理ヲ推究スルキハ、此二策  
ハ果シテ十全完備ノモノニアラサルコトヲ會得ス可  
シ  
節儉ノ一目ニ就テ之ヲ論スルニ、先ツ人民ノ分限ヲ  
概シテ三類ト爲ス可シ、然ルキハ億兆ノ中ニハ假令  
其心カヲ勞役スルト雖モ日々、苦辛經營スル處ヲ以  
テ其生計ヲ維持スルニ足ラサルモノ必ス夥多ナラ  
シ、コノ類ノ人民ニ何ソ少餘ヲ省惜シテ以テ未來ノ  
需求ニ供スルコトヲ望ムヘケンヤ、之ヲ其第一類ト爲

ス、更ニ一步ヲ進メタル人民ニ於テハ今日ノ勞作ヲ  
 以テ僅カニ今日ノ需用ヲ辨スルニ足レバ、未タ有餘  
 ヲ儲ヘテ以テ遼遠ノ預備ト爲スニ足ラス之ヲ其第  
 二類ト爲ス、第三類ノ人民ニ至テ始テカノ身力壯健  
 ノ時ニ方テ勞作ニ勤メ節儉ヲ行フテ能ク羨餘ノ蓄  
 積シ、之ヲ將テ氣力老衰セシ片ノ預備ト爲スヲ得  
 ルノミ、○カノ貧ハ自ラ作スノ孽ナリ節儉ハ人ノ義  
 務ナリトノ恆言ハ之ヲ第三類ノ人民ニ限リテ責ム  
 ヘキノミ、故ニ此分限ノ人民ニシテ節儉ヲ怠ル者ハ  
 自ラ禍ヲ買フニ異ラス、患苦困難ノ輻輳スル所トナ

リ其極、死亡ヲ免レサルモ唯々自ラ其身ヲ責ムヘシ  
 決シテ他人ヲ咎ム可ラス、殊ニ此人ノ禍ハ又以テ大  
 ニ濫費者ヲ警戒スル殷鑑トナルカ故ニ、全ク世上ニ  
 其効用ナキニアラス、此ハ是レ性理上ニ確立シタル  
 因果ノ大法ノ然ラシムル處ニシテ、人為ノ法則ノ如  
 ク動搖ノ憂ナク偏頗ノ作用ナク、有罪者ヲ撰テ冥罰  
 ヲ加ヘ其輕重寬嚴ハ罪ノ深淺厚薄ニ適當シテ毫釐  
 ヲ錯ヘサルナリ○若シ夫レ法律ノ目的トスル處ハ  
 時ニ報復ノ一點ニ在ト爲ス片ハ此過酷ノ論アルモ、  
 利用學ノ大綱ニ於テハ報復ヲ目シテ素ト怨惡ニ脛

胎スル情意ト爲シ之ヲ良性ノモノト看做サ、ルナ  
 リ、故ニ、茲ニ一問題ヲ舉テ以テ論者ニ質サン、曰ク今  
 論者カ忿然トシテ以テ浪費濫用ノ適罰ナリト説ク  
 處ノ懈怠貧窮ノ禍ニ依テ結フヘキ果實ハ世上ニ向  
 ヲテ何等ノ影響ヲ生スヘキヤ、且ツ果シテ論者ノ説  
 ノ如ク、此禍ノ犠牲ト爲リシモノハ自ラ他人ノ爲メ  
 ニ前車ト爲リ、其轉覆ニ由テ世俗ヲ警戒懲創シ、以テ  
 再ヒ此禍ニ罹ルヘキ失錯ヲ防禦スルニ足レリト保  
 証スルヤ、  
 論者ノ説ノ如キハ唯々其一ヲ知ルノ偏見ニシテ未

タ以テ人心ヲ洞察スルモノト爲スニ足ラス、夫レ己  
 カ境遇ノ厚薄ニ應シテ快樂ヲ希望スルノ欲情、叢生  
 スルモ之ヲ克服スルヲ能ハス、或ハ自反自責ノ術ヲ  
 知ラスシテ眼前ノ誘惑ヲ抑制シ能ハス、濫費浪用シ  
 テ自ラ禍患ニ陷溺シ、其極、死亡ヲ免レサルカ如キ人  
 物ハ其愚ハ恕ス可シ、其不幸ハ憫憐ス可シト雖モ、之  
 フ殷鑑トシテ以テ世上ノ勞作者ヲ感化スヘキ教訓  
 トスルニ足ラサルナリ○凡ソ此慘愁スヘキ境遇ニ  
 沉淪スル人ハ、廉恥心ノ存スルアリテ其苦楚ノ状態  
 ヲ掩蔽シ、肯テ他人ニ知ラシメサルモノ居多ナリ、然

ルヲ猶ホ罪人ヲ刑スルカ如ク之ヲ以テ他人ノ心目  
 ヲ警戒シ、其罪ノ因由ヲ覺悟セシメンカ爲メ公然之  
 ヲ市曹ニ發顯スルヲ得ヘキヤ、其能ハサルヲ知ルヘ  
 キナリ○假令、衆庶ノ中ニハ之ヲ目撃シテ警戒ノ心  
 ヲ生セシムヘキ人アリトスルモ、適當ノ解説ヲ與ヘ  
 テ、其人ニ不注意ヲ原因トシ、患難ヲ効果トスルノ關  
 鍵ヲ認定履行セシムヘキヤ、且患苦ヲ受クル人ハ必  
 ス之ヲ不虞ノ厄運ニ歸シテ、萬モ免ルヘキ方策ナキ  
 ヲ以テ口實ト爲シ、輒チ其罪ニ服セサルヘシ、世人ニ  
 在テハ當ニ他ノ損亡ニ陷ルモノ、貧窮ニ困頓スル

者ノ心思ヲ感動スルハ得テ期ス可ラス、夫ノ壯年ノ  
 春秋ニ富メルニ方テハ、目下ノ苦樂ヲ以テ滿腔ノ思  
 區ヲ占メ、絶エテ渺茫遼遠ナル苦樂ニ慮リ到ラス、故  
 ニ若シ壯者ノ心思ヲ感動セント欲セハ、宜シク婚姻  
 其他游樂ノ如キ近接ノ事件ヲ以テ之ヲ誘掖スヘシ、  
 夫ノ智力ノ區外ニ在ル遼遠ナル刑罰ニ至テハ全ク  
 空爲ニ屬シテ其効用ヲ見ル可ラサルナリ、○之ヲ要  
 スルニ此論題ハ素ト思慮淺薄ナル人民ヲ誘導スル  
 ニ在ルナルヘシ、然ルニ彼ノ論者ノ如ク、他人ノ患苦  
 ヲ假リテ以テ之ヲ懲戒教訓セント欲スル時ハ、其勢

思慮ニ乏シキモノヲシテ深遠ナル思慮ヲ為サシメ  
 サルヲ得ス果シテ然ラハ政令法律ハ全ク有智者ヲ  
 治ムルモノニシテ思慮淺薄ナル人民ノ為メニ制定  
 シタル治術ニアラサルナリ將タ何ノ効用アラシヤ  
 覆考 節儉ノ道ニ三種ノ虧缺アリ即チ日々ノ生計  
 ヲモ謀リ得サルモノハ之ヲ行ヒ能ハサルヤ明白ナ  
 リ是レ其一ナリ總カニ日常缺ク可ラサル需用ヲ辨  
 スルモノト雖モ又之ヲ行フニ充分ナラス是レ其二  
 ナリ獨リ第三種ニ於テハ先ノ二者ヲ除キタル人民  
 ナルヲ以テ其力自ラ節儉ヲ行フテ以テ將來ノ蓄積

ヲ見テ自ラ勞作ニ勤メ節儉ヲ旨トシ敢テ怠倦セサ  
 ルノ氣力ヲ憤發スヘキハ事理ノ當然ナリト雖モ之  
 ニ牽強ノ道理ヲ附會シ彼人ハ薄命ナリ曾テ物コト  
 ニ注意シ事々ニ省戒セシカトモソノ實驗スル處ニ  
 就テ見レハ此極ニ至ルヲ免レス實ニ人類ノ注意ハ  
 幻泡ノ如クニシテ一定ヲ期シ難シト言フモノ必ス  
 許多ナラン○固ヨリ此言ハ論理學ノ誤解ニ出テ  
 眞理ニ相反セル者ニシテ取ルニ足ラス唯是レ筋骨  
 ヲ役シテ頭腦ヲ勞セサル力作者ノ思慮ノ完全ナラ  
 サルニ起ル處ノ愚説タルヤ明瞭ナリ然ルニ論理學



民法論 卷之二 三十一 何白 稿

ノ一誤解ヲ執テ以テ之ヲ今日アルヲ知リテ來日ヲ  
慮ラサル處ノ卑賤者流ニ責ムルハ、豈ニ過酷ノ論ト  
謂ハサルヲ得ンヤ

加之、其運行ノ期甚タ遼遠ナルヲ以テ、千思萬考スル  
モ之ヲ刑罰ト看做シ能ハサルナリ、果シテ之ヲ刑罰  
ナリトセハ何ソカノ知見日々ニ晋ムノ壯年ノ時ニ  
アラスシテ、却テ衰頽ニ傾ク暮齡ニ在ルヤ、罰ノ至ル  
ト如斯遲キカ故ニ警畏ノ情ヲ疎薄ナラシムル實ニ  
著シト謂フ可シ。○殊ニ老壯二者ノ氣質甚タ相反ス  
ルモノニテ、老者ノ貧苦ニ輾軋スルニ鑿ミテ以テ壯

ヲ爲スニ足ルモノアリ、然レモ必竟、人智ハ完全ナル  
モノニアラザンハ第三種ノ人ト雖モ時トシテハ亦  
タ之ヲ行ヒ能ハサルモノアルヲ免レズ

以下專テ第二策、即チ樂助ノ一事ニ説キ到ラントス、  
此樂助ノ方法ニ於テモ亦許多ノ疵瑕ナキヲ得サル  
ナリ

第一 樂助ノ一ナル一定不易ノモノニアラス、賴  
テ以テ樂助ヲ仰ク處ノ施主ニ、貧富寛吝ノ別アリ、從  
テ樂助スル處ノ貨財、日ニ變動シテ一定セザルベシ、  
而メ若シ此樂助ノ資、充分ナラサル耶、貧民ノ患苦ヲ

民法論 卷之二 三十一 何白 稿

救フニ術ナク唯其死亡ヲ俟ツノ外ハアラス、之ヲ以テ羨餘アラシメン耶、徒ニ惰夫ヲ褒賞スルノ理ニ當リ二者俱ニ其弊アリ

第二 樂助ハ負任ヲ平ヲ得サルモノナリ、夫レ貧民ニ施ス處ノ餘財ハ、乃チ世人ノ最モ慈仁アリ最モ德行アルモノ、損失ヲ以テ成ルモノニテ、敢テ其分限ノ度數ニ應セサルヲ徃々之アリ、然ルニ性質慳吝ノ人ハ、釀金ヲ免レンカ爲メニ巧ニ道理ヲ立テ、己カ鄙劣ヲ文飾セント欲シ、口ヲ極メテ貧民ヲ罵リ之ヲ賑恤セサルヘシ、然ルルハ樂助ノ制度アルハ、カノ慳

貪剛戾ナル人民ノ爲メニハ適恩惠ト爲ルヘシト雖モ、德行ノ第一タル好善者ノ爲メニハ恰モ刑罰ト爲ルノ理ナリ、然ルヲ刑罰ト言フ所以ノモノハ、抑モ是レ樂助ナリ、然ルヲ刑罰ト言フ所以ノモノハ、抑モ故アリ、今カノ好善者ノ手ヨリ出ツル處ノ貨財ハ、樂助ノ虛名ヲ荷フト雖モ、其衷情ヲ尋ルルハ果シテ刑罰タルノ理アルヲ看破スルヲアルヘシ、何ソヤ、曰ク此樂助ノ意ヲ發作セシメシモノハ教誦上ノ畏惧心ニアラス又政治上ノ畏惧心ニアラス、全クカノ仁慈ノ行ヲ促ス處ノ惻隱ノ情、即チ他人ノ憂ヲ坐視ス

ルニ忍ヒサルノ柔志ニ胚胎スルニアラサルハ無キナリ、○此情ハ仁慈ノ行ヲ為スニ依テ以テ一定ノ快樂ヲ購ハント欲スルモノニアラス、唯タ哀憐惻怛ノ情、其良心ヲ責メテ止マス、遂ニ此損失ヲ為サ、レハ之ヲ慰メテ安息スルヲ能ハサルニ由レリ、○且蘇格蘭ノ如キ貧民ヲ救恤スルニ唯タ此樂助ノ一事ニ限ル處ノ邦國ニ於テハ、貧民ノ仰テ以テ扶助ヲ得ヘキハ、纔カニ貧窮ノ愁域ヲ脱シテ其艱苦ヲ知ル處ノ人、民ニ居多ニシテ、素封家ノ之ヲ救卹スルハ甚タ寥々タリトス

第三 樂助ハ分配スルニ便ナラス此樂助ノ貨財ハ之ヲ偶然ノ善行ニ任セテ、恰モ路上ニ於テ乞丐ニ施スモノト一般ナラシムヘキ耶、將タ常ニ之ヲ乞フ者ト之ヲ施ス者ト互相ノ情誼ニ付シテ、官吏ハ敢テ其間ニ周旋スルヲ要セサルモノト為スヘキ耶、果シテ然リトスル時ハ原ト樂助ハ供給ノ道源々トシテ絶エサルヲ保テ難キカ上ニ、更ニ又他ノ料リ難ク定メ難キ事情ヲ加フルニ至ラン、○蓋シ貧民ノ數ハ衆多ニシテ其幾千萬ナルヲ測ル可ラス、而モ各個ノ境遇相異ナリテ一視同仁ノ觀ヲ作シ能ハサルモノア

リ、知ラス此衆多ニシテ而モソノ境遇ヲ異ニスル幾  
 千萬ノ中ニ於テ何等ノ策アリテ其施濟ノ當否ヲ甄  
 別シ得ヘキヤ、倘シ境遇ノ如何ヲ顧ミスシテ施濟ニ  
 ノミ之レ從事スル時ハ、貧而好善ノ老嫗婦カソノ囊  
 底ヲ敲キテ、路上ニ彷徨スル丐女ニ一錢ヲ與フルモ、  
 適以テ其酒食ノ資ト爲ルニ過キス、其効用ハ全クア  
 ラサル可シ、且、常人ニ望ムニ悉徳臣ノ德行ヲ以テシ、  
 氣息淹々ノ際ニ臨ンテ尚ホ自ラ渴ヲ忍テ、此水ハカ  
 ノ老兵ニ與ヘヨ、彼レハ我ヨリモ之ヲ欲スト、言ハシ  
 ムルヲ得ヘケンヤ、西國立志編第十冊ノ卷尾ニ出ツ斯ノ如キ大

仁者ヲ得可ラサルハ必然ナリ、○且其惠施ヲ分與ス  
 ルニ方テモ、廉耻ヲ知リテ正直忠厚ナル人民ハ、貧苦  
 ニ悩マサル、ト雖モ聲ヲ吞ミ涙ヲ掩フテ敢テ哀求  
 スルヲ無ク、從テ實惠ニ沾フモノハ正直忠厚ノ人民  
 ニアラスシテ、彼ノ狡猾無頼ノ惡徒テルヘシ、此惡徒  
 ハ故ラニ貧苦窮愁ノ脚色ヲ打扮シテ其技倆ノ巧精  
 ナルハ殆ント劇場ノ俳優ニ遜ラス、其善人ヲ欺クニ  
 方テヤ機ニ投シ顔色ノ窺ヒ悲哀ヲ以テシ、諂諛ヲ以  
 テシ虚言ヲ以テシ、涕淚ヲ以テシ、惡行ヲ怕レズ面目  
 ヲ惜マヌシテ以テ其貪饕懶惰ノ資ヲ收獲シ、而メカ

ノ狡猾ノ術ニ通セサル良民ノ如キハ、貧苦艱難ノ中ニアルモ猶ホ名譽ヲ愛存シテ此樂助ノ美舉ニ沐浴セサルニ至ラン

若シ好善者ノ樂助スル處ノ貨財ヲ分與シテ更ニカノ求乞者ノ情實ヲ甄別揀擇スル處ナクンハ、則チ正直忠厚ナル貧民ノ得分ハ必ス無賴狡猾ナル乞兒ニ及ハサルヤ之ヲ掌ニ視ルカ如シ

然ラハ則チ樂助ノ金錢ハ之ヲ一處ニ集メテ以テ公金ト爲シ、特ニ執事ヲ撰ンテ之ヲ分配セシムヘキヤ、答テ曰ク如此ハ能ク貧者ノ緩急ヲ計リ身軀ノ病否

ヲ檢査シ其當否ヲ算シテ之ヲ配與シ彼此厚薄アラシメサルヲ以テ夫ノ各自隨意ノ樂助ニ比スレハ一層ノ良善ヲ加フヘシト雖モ、又之ニ由テ人ノ樂助ノ心ヲ減殺スルノ弊アルヲ免レヌ是レ此法則ノ通患ナリ○何トナレハ此法則ニ由レハ己カ惠施スルモノヲ舉テ他人ノ手ニ交付シ親ラ之カ分配ニ關與セサルニ依テ眼前ニ己カ慈惠ヲ伸暢スルノ樂意ヲ享ケ得ス自ラ樂助ノ效驗ヲ目撃セサルニ依リテ無形ノ一物アリテ胸中ニ蟠結シ我カ樂善ノ心ヲ冷淡ナラシムヘシ之ニ及シテ己レ直チニ之ヲ施與スル片

八貧苦ノ狀、我カ眼前ニ形ヒ、哀告ノ聲、我カ耳孔ニ徹  
シテ、我レヲ除キテハ他ニ扶助ヲ求ムヘカラサル景  
況アリ、乃チ惻隱ノ情、勃然トシテ發動シ、之カ爲メ更  
ニ財ヲ惜ムノ餘念ナキナリ、○又之ヲ一般ノ人民ニ  
課シテ出金セシムルモノハ、或ハ我カ所望ニ合セサ  
ルノ用途ニ供セラル、ヲ保チ難久且、賦金トシテ所  
出ノモノハ一錢ノ微ナルモ之ヲ課セラル、ト一人  
ト其家族ノ爲メニハ大金ニ當ルヘシト雖モ課金ノ  
全額ト貧民ノ總體トニ比較スルハ、大海ノ一滴ニ  
過キサル可シ、是レ貧民救卹ノ一事ヲ以テ之ヲ富者

ニ負擔セシメタル所以ナリ、○之ニ因テ之ヲ見レハ  
輿論ノ歸スル處ハ正ニ以富救貧ノ一點ニ在ルヘキ  
ヲ以テ課金ノ法ハ之ヲ全國ノ人民ニ施サンヨリハ  
寧ロ殷富ノ家ニ限リテ之ヲ施行シ、其施金ヲ分配ス  
ルハ之ヲ全體ノ貧民ニ與ヘンヨリハ寧ロ之ヲ事實  
止ムヲ得サルノ貧民ヲ撰ミテ之ニ與ヘ、以テ永久ノ  
實惠ニ沾ハシムルニ如カス、果シテ然ルヲ得ハ人民  
徴収ノ苛酷ヲ覺ヘスシテ社會ノ美事、速ニ舉ルヘシ  
此論ヲ至當ナリトスル時ハ貧民ヲ救卹スルニハ課  
金ノ規則ヲ設立スルヲ以テ法制ノ大綱ト認定スル

モ亦妨ケナカルヘシ、但シ貧民トハ夫ノ日々ノ生計ヲ得サル者ニ限ルヲ要ス、己ニ貧民ニ斯ノ註脚ヲ下スルハ貧民ノ貧民タル分限ハ益々急切ニシテ施主ノ施主タル分限ニ比スレハ其勢一層慘烈ナルモノアリ、何トナレハ若シ貧民ヲ不問ニ措キ救卹ノ策ヲ立サル時ハ帝ニ一死ニ陷ルノ外アラスシテ其患苦ノ度ハ施主ノ僅カニソノ餘財ヲ損失スルノ憂ヨリモ太甚シケレハナリ

**匱**若シ各施主ノ出金ヲ定メ置ク時ハ各人預シメ其額數ハ必ス之ヲ出スヘキ義務アルヲ知リ得

テ出金ノ期ニ臨ミテ損失ヲ憂フノ氣色アラサルヘシ、但シ胸間尚ホ一點ノ憂アリテ未タ化セサルモ、其性ハ全ク別ニシテ殊ニ稀薄ナルモノナリ、法律ヲ以テ課金ノ額數ヲ制定スルニハ單ニ貧民燃眉ノ苦ヲ解キテ生計ノ道ニ就カシムルノ外ニ起ユ可ラス、之ヲ起ユレハ適以テ惰者ヲ惠ンテ勞者ヲ虐スルノ惡政ト爲ルヘシ、若シ夫レ貧民ヲ救卹シテ羨餘アラシムルモ却テ其害ナキヲ得ルハ唯タ私人ノ自費ヲ以テ之ヲ供給スルモノニ於テノミ然リトス、是レ私人ハ各自ノ思慮ニ從テ貧民ノ境遇ヲ甄別シ

得へく殊ニソノ人數寡少ナルヲ以テ取捨増減スル所アリテ方法ノ妥當ヲ得レハナリ

コノ集メタル課金ヲ配與スル方法ノ節目ニ至テハ經濟學ノ區域ニ屬スルヲ猶ホ此學科ニ於テ社會ノ下等ヲシテ恆ニ節儉ノ心ヲ興起シ將來ノ計ヲ預慮セシムル方法ヲ考究スルカ如ク然リ。○貧民救卹ノ事ハソノ關係輕少ナリト謂フ可ラス、記者數篇ノ論策アリ頗ル世人ヲ啓牖スルニ足ルヘシト雖モ、未タ一篇ノ文章ノ能ク其全豹ヲ總括セルモノアラス七百九十七年貧民治法ノ書ヲ著シアルソング氏ニ與ヘテ農業年報ニ掲載セリ、後チ備人之ヲ譯シテ

專ハラ彼國ニ行ハル、ト云フ 故ニ爰ニ貧窮ノ理論即チ貧窮ノ等差ヲ分チ其苦域ニ陷溺セル原由ヲ細釋シ而メ之ヲ豫防シ之ヲ治療スルノ方法ヲ概論スルト云爾

第二章 宗教ヲ扶持スル費用ヲ論ス

若シ夫レ教門ノ法徒ヲ將テ人民ノ道德ノ一部タル信心善意ヲ保佑スル職任アルモノト爲ス時ハ之ヲ扶持スル費用ハ宜シク國內ノ安寧ヲ保護スル所入曲直ヲ裁判シ非違ヲ警察スルノ費用ト一途ニ出ツルヲ至當ナリトス、是レ教門ノ法徒ハ人民ノ道德ヲ監察シ之ヲ教誨スルノ一兵隊ニシテ常ニ法律ノ前



驅ト爲リ、固ヨリ己發ノ罪犯ヲ罰スルノ權アラサル  
 モ罪過ノ由テ起ル處ノ惡意ヲ攻撃シ、之ニ依テ人民  
 ノ品行ヲ匡正シ順從ノ大義ヲ指示シ以テ官府ノ治  
 圖ノ幾分ヲ補弼スルモノナレハナリ。○若シ又法律  
 ニ委任スルニ下等ノ人民ヲ教育シ法律ヲ宣布シ政  
 府ノ趣意ノ所在ヲ説諭スルカ如キ、教門相當ノ事務  
 ヲ以テスルハ、ソノ國家、民人ノ裨益タルハ誠ニ小  
 少ニアラサルヘシ。加之、法徒ノ國家ニ竭ス處ノ實職  
 益、增多スルニ從ツテカノ己カ教理ヲ固執シ、宗派ノ  
 爭競ヲ起スノ弊、益減少スヘシ。蓋シ固執、爭競ハ、功名

心アリテ之ヲ世上ノ實用ニ供シ能ハサルニ淵源ス  
 ルモノナルヲ以テ若シ其有爲ノ氣ト、名利ノ心トヲ  
 籠絡シテ之ヲ實用ノ目的ニ用ヒ、汲々トシテ暇マナ  
 カラシメナハ、國家ヲ惱亂シ人民ヲ煽惑スルノ禍根  
 ヲ杜絶シ得ヘケレハナリ  
 政府ノ謨猷果シテ斯ノ如クナル時ハ則チ法教ノ真  
 諦ニ服セサル人民ト雖モ、其利益ヲ被ルニ於テハ信  
 心ノ徒ト同一ナルカ故ニ、之ヲ扶持スルノ費用ヲ課  
 スルニ方テ敢テ怨言ヲ吐ク者ナカルヘシ  
 然リト雖モ若シ教門數派ニ分レ、加フルニ舊立ノ法

制ニ由テ歟或ハ特殊ノ情實ニ由テ歟必スシモ一定ノ教門ヲ扶持スルヲ要セサル處ノ邦國ニ於テハ制法者ハ信者ノ信仰スル處ニ從テ各宗各派ヲ扶持セシメ敢テ之ニ關與セサルヲ宜シトス若シ否ラサレハ大ニ自由之理ト同等ノ理ヲ害スルヲ免レサルナリ○唯タ此治術ニ據ル時ハ法徒ハ政府ニ依頼スル處ナキヲ以テ只管人民ヲ煽動誘惑スルカ爲メニ盡力熱心シテ其害亦恐ルヘキモノアルニ至ラン然レ氏各宗互ニ盡力熱心シテ以テ相軋ルカ故ニ其事有益ノ争競ト爲リ自ラ權衡ヲ得テ一極ニ偏倚セス從

テ勢焰靜謐シテ人心激動ノ危難ヲ避クルニ足ルヘシ  
 茲ニ不幸ナル國民ノ一例ヲ舉ゲン愛爾蘭ノ實況ナリ此國ノ制法者ハ專ラ壓制ノ力ニ仗リ人民ヲシテソノ歸依スル處ノ法教ヲ公然ト禮拜スルヲ得サラシメ却テ好マサル處ノ法教ヲ扶持スヘキ義務ヲ擔任セシメタリ此治術ハ二重ニ人民ノ安固ヲ破ルモノト謂ハサルヲ得ス斯ク壓制ノ下ニ在ル人民ヲシテ其心ヲ快活ナラシメ政府ヲ仇視セス性情兇狠ナラス變亂ヲ喜ハス陰密ニ事ヲ謀ル等ノ危險ナカラシメン

ト欲スルハ萬々得ヘカラサルナリ○實ニ此人民ハ己カ歸依セシ處ノ宗教ヲ禁制セラレ心意ノ引導者ヲ奪ハレ服從セル教師ヲ放タレ一切法教ノ便益ヲ得ルヲ能ハサルヲ以テカノ冥頑不靈ナル首領ノ下ニ靡從シテ之ヲ疑ハサルニ至ルモ亦勢ノ止ラ得サル處ナリ○固ヨリ人民ヲシテ強テ好マサルノ法教ヲ扶持セシムルハ徒ニソノ逆意ヲ促スノミニテ之ヲ反亂ノ氣ヲ養フ學校ト稱スルモ不可ナラサルヘシ此極ニ至テハ徒ニ誓詞ヲ要取スルモ國家ニ於テ一點ノ實利ナク唯タ其心ノ恐懼危疑ヲ増スノミ

ニテ人民ヲシテ政府ニ歸向セシメントシテ却テ朋黨ヲ固結スルノ媒妁タルヲ免レス故ニ人民ノ邪惡ノ猛烈ナルハ猶ホ公平ヲ以テ之ヲ治御スル片ハ其懿德ノ旺盛ナルニ齊シキナリ

第三章 學術ヲ脩養スル費用ヲ論ス

國家ノ財政ニ就テ斯ニ論スル所ノ學術ハ日用普通ノ學術ヲ指スニアラス日用普通ノ學術ノ如キニ至テハソノ目的固ヨリ人民ノ公利ニ屬スルヲ以テ直ニ人民ニ課シテ之ヲ扶持スルモ敢テ一人ノ其間ニ喙ヲ容ル者ナカルヘシ

茲ニ所謂學術ナルモノハ一國ノ物華文明ヲ煌輝ナ  
ラシメニカ爲メニ設置スル所ノ技藝建築壯嚴ノ類  
ニシテ、專ラ娛樂ノ用ニ供スル所ノ美術即チ國家ノ  
必需外ニ屬スルモノ、費用モ亦賦課ノ法ヲ用ヒテ  
之ヲ人民ヨリ徵收スヘキヤノ當否ヲ論スルノミ、其  
費用ハ果シテ賦課ノ法ニ依テ之ヲ人民ヨリ徵收ス  
ルモノトスルモ、其成果ハ徒ニ雅趣美觀ヲ増加スル  
ノミニテ一モ人民ノ實用ト爲ラス、然ルニ尚ホ賦課  
ノ法ヲ用ヒテ敢テ正義ニ戻ラストスル耶、是レ此一  
章ノ論題ナリ

記者ハ敢テ實用ノ學術ヲ束閣シテ、唯タ雅趣アル學  
術ノミヲ勸奨スルノ趣意ニアラス、又敢テ徒ニ國家  
ノ壯嚴ヲ盡シ便嬖、功官ノ秩祿ヲ裕カニシテ人民ノ  
飢寒ニ苦シミ溝壑ニ轉スルヲ顧ミサルヲ以テ事理  
ニ適セリト看做スニアラス

蓋實用ト雅趣トノ間ニ眞ノ反對アリト謂フニア  
ラス、夫ノ人ニ娛樂ヲ與フルモノハ一トシテ實用  
ニアラサルハ無シ、然レモ普通ノ語ヲ以テ之ヲ解  
スルキハ夫ノ遠大ノ用アルモノヲ實學ト稱シ徒  
ニ目前ノ娛樂ニ過キサルモノヲ雅趣ト云フノミ、

故ニ實用ノ有無決シ難キモノ亦數多アリ茲ニ説ク所ノ外自ラ一定ノ實用アルヘシ

今茲ニ考案ノ一二ヲ陳説スルモノハ聊カ以テ雅趣ノ學術ノ爲メニ其所用アルヲ知ラシメントスルノ

第一 雅趣ノ學術ニ費ス處ノ金額ハ之ヲ國需ニ支給スルモノニ比スレハ其數常ニ僅小ナルモノナリ然ルニ若シ國費ニ羨餘ヲ生スルヲ以テ之ヲ人民ニ返却シテ各個ニ分配ス可キト爲スモ人民ノ得分ハ至微ナルモノニシテ人民ニ於テハ物ヲ得タルノ感

覺ヲ起スニ足ラサルハ必然ナリ

第二 國費ノ額外タル此一部ハ素ト之ヲ必需ノ國費ニ混同シテ徵收セシモノナルヲ以テ人民其負擔ヲ感覺セス從ツテ之カ爲メ疾苦ノ思ヲ發シ誹語怨言ヲ出スニ至ラス且ツ資産ノ安固上ヨリ之ヲ論スルモ人民物ヲ得サルノ虚苦ヲ覺フト雖モ秋毫ノ微ニ過キサルカ故ニ更ニ物ヲ失スルノ實苦ヲ生スルニ至ラス

第三 雅趣ノ文物ハ異邦ノ人ヲシテ我國ニ歸向セシムルノ紹介ト爲ル外邦ノ人ノ費ヤス處ノ貨幣ハ

我國ノ利潤ト爲リ、而ノ異邦ヲシテ漸々我カ風俗制  
度ヲ採用シ我カ教化ニ服セシムルノ功用アリ、蓋シ  
物華ニ富メル邦國ハ猶ホ宇内ノ大面ニ劇場ヲ開ク  
カ如ク遊人觀客四方ヨリ麇集シテ、其糜費スル處ヲ  
以テ其費用ノ幾分ヲ扶持シ、從ツテ人民ノ出金ヲ省  
減スヘシ

加之、若シ邦國能ク娛樂雅趣ノ文物ニ於テ優美拔群  
ノ聲譽ヲ得タランニハ、必ス他ノ國民ヲ感化シテ欣  
仰愛敬ノ情ヲ懷カシム可シ、見サルヤ昔時雅典ハ文  
華麗明、風俗優美ナリシカ故ニ希臘諸邦ノ具瞻スル

所ト爲リ、以テ其國ノ覆亡ニ垂ントシテ之ヲ挽回セ  
シト一次ニアラサリシヌ、彼國ハ唯此美術ノ光霞彩  
雲ニ賴リテ長ク其弱勢ヲ翳掩シ、苟モ夷醜ヲ脱シタ  
ル國人ハ其兵力能ク雅典ヲ征服セシモ皆ナ此物華  
智慧ノ樞軸タル國都ヲ保存スルニ注意セサルハ無  
カリシナリ

之ヲ要スルニ、此學術ハ人ノ樂趣ヲ誘掖スルモノナ  
ルカ故ニ之ヲ單ニ樂助ノ一途ニ任セテ政府ハ敢テ  
之ニ周旋セサルモ理ニ於テ不可ナルヲ無シ、唯制法  
者ノ大綱トスヘキハ國家民人ノ爲メ須要不可缺

事務ヲ怠忽苟且ニ付スルヲ無クソノ不足ナキヲ俟  
 テ始メテ此文物ノ扶持ニ着手スヘキニ在ルノミ  
 故ニ若シ軍旅ノ事起リ或ハ天災人禍ニ由リテ人民  
 損害ヲ蒙ムリシモノアルモ政府既ニ之ヲ償補シテ  
 安固ノ境遇ニ復シ而メ貧民ノ救助己ニ立チ一國理  
 財ノ道己ニ洞通スル時ニ至テハ夫ノ文雅樂趣ノ事  
 ニ着手シテ俳優養フヘク畫工聘スヘク百技巧匠ノ  
 徒ヲ眷顧使用スヘシ國勢ノ未タ焉ニ至ラスシテ偏  
 ニ文明ノ外觀ヲ裝飾スルハ是レ其末ヲ務メテ其本  
 ヲ忘ルナリ事理ニ戾ルト謂ハサルヲ得ス

如斯事情ニ方テ如斯費用ヲ要スル時ハ必ス人民ノ  
 心ヲ失ナヒ誹謗其實ニ過キテ大ニ國君ノ利益ヲ害  
 スヘシ蓋シ誹謗ハ素思慮ヲ盡スニ違アラズ壹一時  
 ノ血氣ニ發スル者ナルカ故ナリ而メ其論ヲ巧ミニ  
 シテ竟ニ一篇ノ文章ヲ為シテ人民ヲ教唆シ以テ政  
 府ヲ顛覆スルノ具ト為ルニ至テハ其效驗ノ著キ  
 衆ノ能知ル處ナリ○必竟奢侈娛樂ハ固ヨリ國君ノ  
 心ヲ誘惑スヘキ物タルヲ疑フ可ラスト雖モ夫ノ古  
 ノ共和諸邦ノ之ニ沈湎メ國事ヲ擲却セシカ如キ大  
 害ハ未タ曾テ有ラサルナリ雅典ノ如キハ一國危急

ノ秋ニ方テデモステニスノ諫諍ヲ聽カス非立帝ノ  
 威勢ヲ意トセスソノ民心ノ滔々トシテ歸ヌル處ヲ  
 問ヘハ自主自由ヲ維持スルニアラス又一國ノ防禦  
 ヲ鞏固ナラシムルニアラス唯上下交娛樂ニ耽溺シ  
 劇場ノ資金ヲ見テ最貴最要ノ國需ト爲シ之カ爲メ  
 ニ國安ヲ棄テ義務ヲ怠リテ恬然顧ミサルニ至レリ  
 ○羅馬ノ都城ニ於テモ人民ノ性情悉ク外觀虛美ノ  
 一事ニ癖シテ之ニ趨クテ闔國殆ント狂セルモノハ  
 如シ夫ノ功名ノ心ニ熱セル豪傑ノ如キハ都人士ヲ  
 籠絡シテ撰擧ノ發言ヲ買ント欲シソノ嗜癖ニ投シ

テ國家ノ公財ヲ揮霍シ之カ爲メニ征服シタル國民  
 ノ膏血ヲ絞ラサルヲ得サルニ至レリ故ニ若シ外任  
 ノ方伯都府ニ歸リテ祭儀晡筵ヲ行フコトアレハ其事  
 人民ノ愁苦ト爲リテ僻陬遐邑ニ至ルマテ疾首セサ  
 ルハナク實ニ都城ニ於テ競馬一刺ノ快樂ハ州郡幾  
 百万人ノ家産ヲ破ル原因タラサルハアラサリシナ  
 リ

民法論綱卷之二終





